

# 個別の指導計画の作成

「気づき→実態把握と考察→個別の指導計画の作成」の手順で進めます。学級担任と自律教育コーディネーター・校内委員会が有機的に連携しながら作成しましょう。

## 1

### 個別の指導計画が必要です

個別の教育的支援が必要な学齢期の児童生徒に対して、学校が中心になって作成するのが個別の指導計画です。一人一人のニーズを正確に把握して、適切な教育的支援を効果的に行うためにも、関係者が連携して支援していくためにも必要不可欠なものです。教育課程に基づき、指導の目標と内容・支援の仕方を具体化することができます。このことにより、具体的な評価もできるようになります。

更に、評価を基に、今までの計画に工夫や修正を加え、実施・評価を繰り返すというP-D-S (Plan-Do-See) サイクルを導入すると、より適切な支援ができるようになります

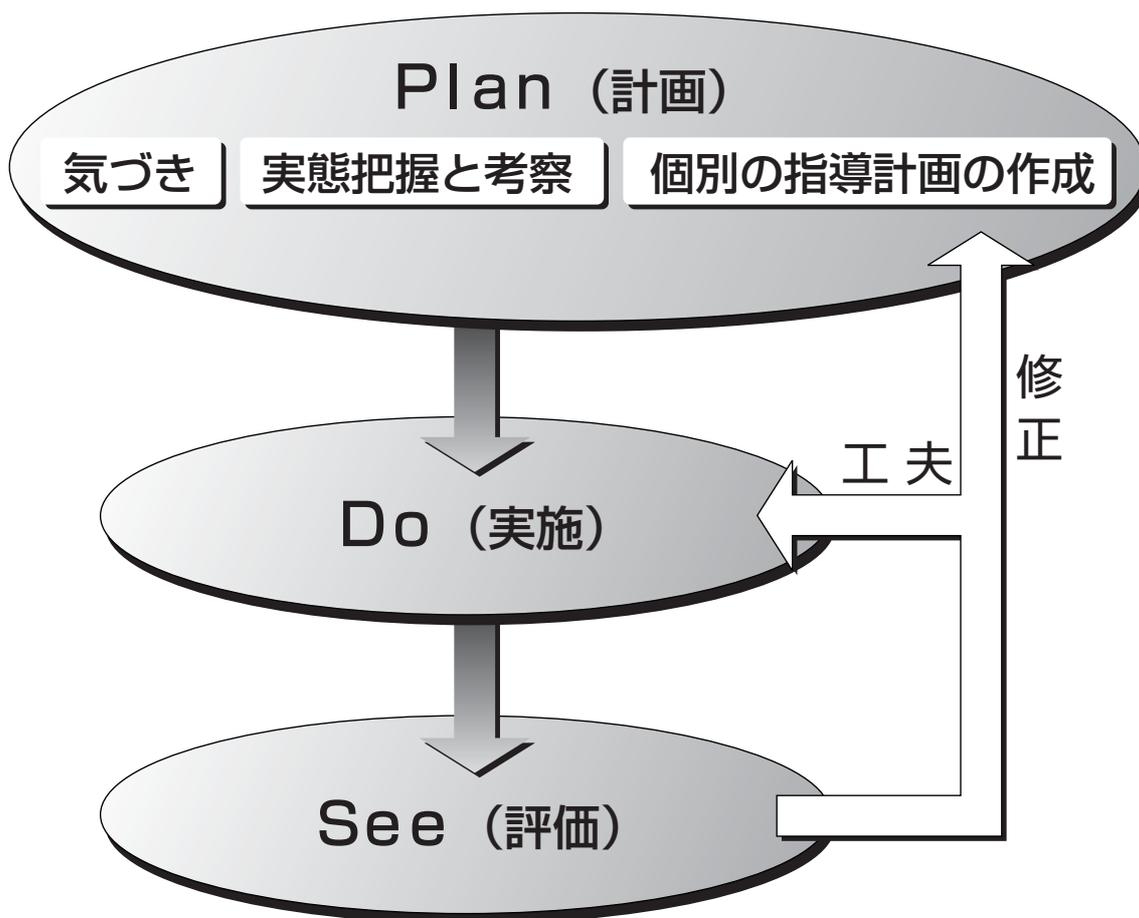


図 P-D-Sサイクルの例

## 2

## 気づきを大切にしよう

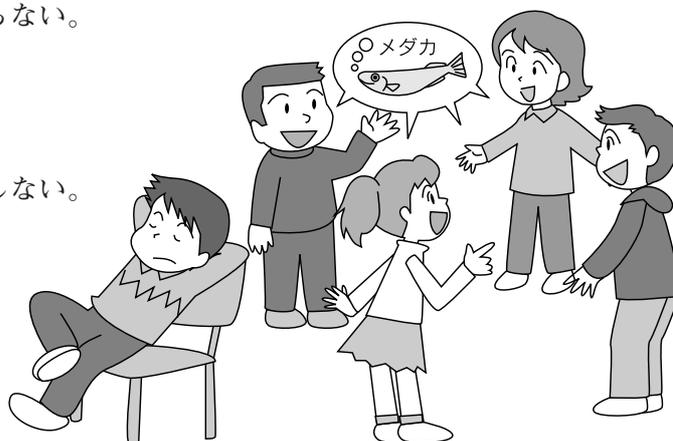
どんな児童生徒に支援が必要なのでしょう。当たり前と思って見ている普段の姿を、もう一度観察してみましょう。「おやっ?」と思う児童生徒が、学級内にいませんか。

- 読んでいるうちに勝手な読み方をする。
- ノート一杯に漢字練習をするのに、ちっとも点数が取れない。
- 文章題になると面倒くさくなってやらない。
- できないのは算数だけ。  
やればできるはずだけれど、やらない。
- 体育がある日は登校を渋る。



- 何度注意しても宿題をやってこない。
- 余計なことを言って授業のじゃまをする。
- 話したばかりのことを質問してくる。
- いつも1番でないとふてくされる。
- けんかの原因が思い出せない。
- 頼み事をする、幾つかは忘れてしまう。

- 気が利かない。言われた通りにしかやらない。
- 融通が利かない。頑固でわがまま。
- 一人でぶつぶつ言っていることがある。
- 漢字や計算は得意なのに、グループ学習になると話し合いに参加しない。



LD・ADHD等の概念が教育現場に浸透してきたのは、つい最近のことです。経験や勘だけでは解決できないケースも多いのはそのためです。できない理由を無意識のうちに性格やしつけに求め、あきらめてしまっていることはないでしょうか。

このような姿に気づいた時には、スクリーニングチェックリストが役立ちます。もっと大事なことは、遠慮せず気軽に相談し合えるような職員同士の開かれた関係づくりです。

■もっと詳しくチェックしたい→P60

## 3

## 実態把握と考察をしよう

実態把握のポイントは、行動の観察や保護者の願いなどの情報を基に、その子のよい面が発揮されるような特徴に焦点を絞り込んでいくことにあります。その特徴を基に、長期的な見通しに立って支援の方向を決めていきます。

ここでは、その形式の例を紹介します（通常の学級用としての例です。盲・ろう・養護学校や自律学級で使用してきた従来の個別の指導計画の形式でも作成できます）。

児童生徒氏名		( 年 男・女 )	記入者氏名	年 月
生育歴・家庭環境 (担任記入)	◆胎児期・乳幼児期の様子、家族構成・家族の関係、虐待の有無などを記述します。		◆教科、行動、コミュニケーション、対人関係など、チェックリストの観点を参考に、特徴的な姿を記述します。	
保護者の意向 (担任記入)				
◆現在の願いや、将来の見通しなどについて、聞き取って記述します。				
諸検査の結果・医学的所見 (委員会記入)				
総合的な考察 (委員会記入)	◆生まれつきのものか、取り巻く環境のためかを考察しながら、それらを総合して全体像を把握します。 ◆長所や自信がもてそうなことを見付けだすことがポイントです。			
支援の方向 (委員会記入)	◆学習・生活場面で活躍できそうなこと、学校としての具体的対応方法などを記述します。 ◆専門家チームや巡回相談員からの情報があれば、記述します。			

■諸検査の例を知りたい→P58

■形式をコピーしたい→P68

## 気づき→実態把握と考察→個別の指導計画の作成

実態把握と考察の記入例を紹介します。

児童氏名 長野 太郎 (小3年 男・女)	記入者氏名 信濃 邦子	○年 ○月
----------------------	-------------	-------

<b>生育歴・家庭環境 (担任記入)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・父, 母, 姉, 本人の4人家族</li> <li>・両親は仲がよく, 本児についても協力的である。父親は「自分も小さい頃は落ち着きがなかった」と言っている。被虐待無し。</li> <li>・胎児期より強くけることが多く, そのため母親は腹部に苦痛を感じるほどであった。</li> <li>・保育園では多動が目立ち, 友だちとのトラブルが多かったため, 加配保育士をつけて対応していた。</li> </ul>	<b>日常生活の姿 (担任記入)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>〈教科〉           <ul style="list-style-type: none"> <li>・算数の単純計算は速くできる。</li> <li>・文章理解には抵抗があるが音読は上手。</li> <li>・音楽が好きで, 特にリコーダーの演奏は得意。</li> </ul> </li> <li>〈行動〉           <ul style="list-style-type: none"> <li>・順番が待てずに割り込んでしまうことがある。</li> <li>・昆虫が好きで, 学級のカブトムシの世話を自分から進んでやっている。</li> <li>・何をやるかをはっきりと黒板に書くと, 集団行動がとれる。</li> <li>・アニメのキャラクターやせりふをよく覚えていて, 友だちとごっこ遊びをして楽しんでいる。</li> </ul> </li> <li>〈コミュニケーション〉           <ul style="list-style-type: none"> <li>・ささいなことからけんかになることがあり, そんな時は注意を聞き入れることができない。</li> <li>・どんな人にも, 物おじしないで話しかけていく。</li> </ul> </li> <li>〈対人関係〉           <ul style="list-style-type: none"> <li>・興奮してくると自分の思いを言葉でうまく伝えられなくなる。</li> <li>・ひょうきんな行動で周囲の友だちを笑わせようとすることが多い。</li> </ul> </li> </ul>
---	---

<b>保護者の意向 (担任記入)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・通常の学級の中で他の児童と一緒に仲良く成長してほしい。</li> <li>・落ち着いて学習に取り組み, 文章の理解もできるようになってほしい。</li> </ul>	
---	--

<b>諸検査の結果・医学的所見 (委員会記入)</b> 教研式集団知能検査 SS62 <b>医学的所見</b> 未受診	
---	--

<b>総合的な考察 (委員会記入)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多動性・衝動性が強く, 文章理解が不得手ということからADHDとLDを併せ有することが疑われる。</li> <li>・算数の単純計算やリコーダーの演奏には自信をもっているが, その反面, 言葉で伝えようとしたり相手の気持ちを考えたりすることは苦手である。</li> <li>・定められた場面を利用するごっこあそびやロールプレイのような活動であれば, うまく行動することができそうである。</li> <li>・友人関係ではトラブルもあるが, むしろ自分からかかわりをもとうとしてのトラブルとみることができるのではないかと。</li> </ul>
---

<b>支援の方向 (委員会記入)</b> 通常の学級の中で, 友だちと仲良く活動したり, 落ち着いて学習したりすることができるように以下の事項に配慮する。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1 算数では計算ドリル等を10問程度に区切ったものを使用し, 短時間で終わることを繰り返し学習できるようにすることで, 更に技能の向上を図り, 自信をつけていくことができるようにする。</li> <li>2 リコーダーが得意なところから, クラス全体の前で発表する機会を設けるなどして, 更に自信をもてるようにすることができそうである。その時に一人だけではなくグループ発表することで, 友だちと協調して行動する経験をもったり, 周囲に認められたりする機会も増えると予想される。</li> <li>3 落ち着いている時に, かかわり方や言い方を学習していけば, 周囲との関係は好転していくものと思われる。こんな時にどのように言えばよいかを, 好きなキャラクターになぞらえたロールプレイ学習などで学習していくのも有効ではないかと思われる。</li> <li>4 教室での座席は窓際を避け, 前から2番目くらいにするなどして, 余計な刺激を排除するとともに, 友だちの行動を見て自分の行動を判断しやすいように配慮する。</li> </ol> ※ 専門家チームに心理検査を依頼して, 本児の認知能力などの実態を考察してもらう。その情報を基にした支援方法について専門家からのアドバイスを受ける方向で考えたい。
---

注：専門家チームの助言を受けることでより具体的な支援を考えることが可能となる。

4

# 個別の指導計画（短期）をつくろう

実態把握と考察を基に、「個別の指導計画（短期）」を立案します。より具体的な支援をするための内容ですから、1ヶ月間程度を目安に指導計画を立案します。学級担任が原案を作成しましょう。ここでは、最も簡単な例を紹介します。各校で使いやすい形式を工夫しましょう。

◆「観点」  
顕著な姿を示す観点のみをピックアップして記述します。空欄があってもかまいません。

◆年月  
1ヶ月単位ぐらいで、できる範囲の内容を計画します。

## 個別の指導計画（短期）

学校

児童生徒氏名		( 年 男・女)	記入者氏名	○年○月～○年○月	
観 点	ねらい	方 法		形 態	評 価
教 科	◆「ねらい」 気になっていることのうち、一番取り組みやすいようなことに絞って記述します。	◆「方法」 場面、時間を限定し、日常的に繰り返しできる、具体的内容を記述します。		◆「評価」 端的に変容の姿を記述します。実感としての成果の有無を記述するだけでもよいでしょう。支援の方向を継続するのか修正するのか、記述しておきます。	
行 動					
コミュニケーション・言葉遣い				◆「形態」 学級の教室でT・T、空いている特別教室での個別学習などと記述します。「だれが」「どこで」を明記します。	
対人関係					

■形式をコピーしたい→P69

気づき→実態把握と考察→個別の指導計画の作成

「個別の指導計画（短期）」の記入例を紹介します。

個別の指導計画（短期）

〇〇小学校

児童氏名 長野 太郎 (小3年 男・女)		記入者氏名 信濃 邦子		〇年〇月～〇年〇月	
観点	ねらい	方法	形態	評価	
教科	<ul style="list-style-type: none"> <li>余りのあるわり算の計算が正確にできる。</li> <li>余りのないわり算の文章題が解ける。</li> <li>自信をもってリコーダー奏ができる。(アマリリス)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定着のために10問ずつに分けた計算ドリルを用いる。</li> <li>具体物を教師と一緒に操作し、意味を問う。</li> <li>グループの発表の場を増やし、認められる機会を多くする。</li> </ul>	<p>3年生教室：T・T (ことばの教室：週3時間個別指導)</p> <p>音楽室：専科</p>	<p><b>*この欄は、1ヶ月後に評価して記入する。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1式で解ける文章題はできるようになった。</li> <li>進んで友だちの前で演奏する。友だちの演奏を褒めることができた。</li> </ul>	
行動	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業のはじめ30分間は座ってられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習内容、手順、準備品などを図や文字で明示する。</li> <li>席に着いている状態を認めて褒める。</li> </ul>	関係全職員	<ul style="list-style-type: none"> <li>図や文字を基に、活動の手順が分かりやすいように指示をすることにより、注意を聞き入れることが増えた。</li> </ul>	
コミュニケーション・言葉遣い	<ul style="list-style-type: none"> <li>担任と1対1で話す時は、言葉の意味の理解が正しくできる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>言葉の意味のくい違いがみられる時は、「〇〇だね」というような端的な言葉に変えて確認する。</li> </ul>	担任	<ul style="list-style-type: none"> <li>1対1で落ち着いて会話する時には、確認により、意味理解ができていようだ。継続して取り組む。</li> </ul>	
対人関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>遊びで順番を守る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>遊びに入る前に順番を確認する。順番カードを用意する。1番でなくてもよいことがある遊びを取り入れる。</li> <li>学級会などでロールプレイを取り入れ、適切な行動の仕方を考えることができるようにする。</li> </ul>	関係全職員	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師が支援する時には、順番を守れることが増えた。</li> </ul>	